

## 1 - 8 樹木などの保全

### (1) 樹木などの保全

- ・敷地内に育成する樹林については、保存するよう努める。やむを得ず伐採する必要が生じたときは、必要最小限にとどめる。

景観区：すべて

- ・樹姿又は樹勢が優れた良好な樹木がある場合は、樹木を修景に生かすよう配慮する。ただし、これにより難しい場合は、移植の適否を判断し、その周辺に移植するように努める。移植後は十分な管理を行い、樹勢の回復を図る。

景観区：すべて

#### 【解説】

樹木は景観形成を図るうえで重要な要素であり、なかでも樹姿・樹勢が優れたものは地域の景観を特徴づけ、その地域の景観の向上に重要な役割を果たしています。これらは長い年月をかけて育まれた、地域の重要な資源・財産ともいえます。

敷地内に既存の樹木がある場合は、その樹木をできるかぎり修景に生かせるよう建築物などの配置を検討します。樹姿や樹勢が優れた樹木の保存が難しい場合は、できるかぎり周辺に移植し、樹勢の回復を図ります。

木竹の伐採を行うにあたっては、周辺景観への影響に配慮するとともに、事前に樹木の樹種、樹齢、樹形などの価値を調査・検討を行います。

やむを得ず伐採を行った場合は、その周辺景観が良好に維持できるように補完措置や代替措置を講じます。

水辺に広がるヨシ群落は、湖国らしい個性豊かな郷土の原風景であり、また、湖岸の浸食を防止し、湖辺の水質保全にも役立つなど湖岸の景観形成に重要な役割を果たしています。敷地内に生育するヨシ原などについては、できる限り保存するよう努めます。



地域の歴史的な景観を構成する重要な要素のひとつとなっている黒松を保存することにより、その景観が保たれている例



地域のシンボルとなる巨老木を保存することにより、歴史的なまちなみが保たれている例

・敷地内に生育するヨシ原などについては、保存するよう努める。

景観区：すべて

### 【解 説】

琵琶湖のヨシ原（群落）は、魚や鳥などの住処であるとともに、琵琶湖とともにある大津らしい風景のひとつでもあります。このヨシ原（群落）を健全に維持管理するために、昔から人々の生活に密着して冬の刈取り、火入れなどの作業が行われていおり、人々の生活に基づいた風物詩となっています。

近年の社会変化の中で、その貴重なヨシ原（群落）は減少傾向にあることから、ヨシ原が敷地内にある場合は、できるかぎり保存するように努めます。



雄琴付近のヨシ原

